

国際的な視点に立った教育の推進

1. 国の動向と目指す学校教育の姿

○第4期教育振興基本計画（令和5年度～9年度） ＜2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成＞

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や、一人ひとりの生産性向上等による、活力ある社会の実現に向けて「人への投資」が必要
- ・Society5.0で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

2. 本市の環境・方向性

○大学や研究機関、企業などの多様な人材の集積

- ・ナノテラス稼働（令和6年4月）
- ・東北大学「国際卓越研究大学」認定（令和6年11月）
- ・東北の中核としてとしての都市機能や企業の集積

○仙台市総合計画（令和3年度～）

Green⇒成長 (Growth) 学びと 実践の機会が あふれるまちへ	・子どもたちが個性を尊重されて健やかに育つことができ、地域に対する親しみと学ぶ喜びを実感できるまち ・次の仙台をつくる担い手が育ち、東北や世界の未来にも貢献できる人材を輩出する学び、チャレンジのまち	Green⇒心地よさ (Comfort) 多様性が 社会を動かす 共生のまちへ	・多様性が尊重され、包括される、誰もが安心して暮らすことができるまち ・一人ひとりが持つ多様な価値観・経験を、社会全体がより良い方向に進むための力に変えるまち
--	--	---	--

○「仙台市ダイバーシティ推進計画指針」（令和7年3月策定）

- ・歴史・文化・都市個性を踏まえ、世界を視野に調和のとれた「仙台らしいダイバーシティーまちづくり」を推進

「たくましく、しなやかに自立する人」を育てるために、これまで以上に、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化する必要がある。

3. 国際的な視点に立った教育

ねらい どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかを考え、その実現を目指して学び続ける子どもたちの育成

○小・中学校で一貫して学ぶ英語を核とした新教科【（仮称）国際探究科】の方向性 ※国の教育課程特例校制度の活用を想定

【当事者意識を持って他者と積極的にコミュニケーションを図り、問題を発見・解決できる資質・能力を育成する】

- ・指導時数：【新教科の年間授業時間数】＝【外国語活動・外国語科標準時数】＋【15時間程度（総合的な学習の時間から移行）】
- ・対象学年：小学校3年生～中学校3年生を想定。小学校1・2年生では生活科の中での体験的な学びの充実

R7：検討着手
段階的に進め、
R11：全校展開へ

何ができるようになるか	・ダイバーシティの意識・態度の醸成 ・国内外の課題を解決しようとする創造的・論理的思考力 ・主体的に学び続ける態度と英語を活用した表現力 ・世界の一員としての自覚と自己の確立
何を学ぶか	・新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた英語の授業内容を核とした学習 ・地域や日本の文化、歴史、科学や世界とのつながり、自分づくり教育や防災教育と関連させた、生きて働く知識・技能
どのように学ぶか	・教科書題材や独自教材を使用して、国際的な視点の題材や体験を通じた活動、地域の歴史・文化や、科学技術、職業観、防災等をテーマに英語を活用した教科等横断的で体験的な学びの実践。学んだことを積極的に活用した探究的で深い学びの実践。

○全市立学校へのALT配置

- ・令和7年度より段階的に外国語指導助手（ALT）を増員し、小学校への配置を拡大。令和9年度までに全ての市立学校へALTを配置します。
- ・日常から学校にALTがいることで、授業のみならず、学校生活全般でALTとの交流により、異文化に触れる機会を積極的に構築します。